

令和7年度

運営に関する計画

大阪市立瓜破西中学校

令和7年4月

(様式1)

大阪市立瓜破西中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

※はじめに

令和5年度に、令和4年度から7年度までの中期目標を変更し、概ね令和5年度から7年度までの目標として設定しています。

1. 学校運営の中期目標

現状と課題

学校全体としては落ち着いた状態で日々の教育活動を展開できている。教職員も授業研究に余念がなく、行事や特別活動の取り組みに対しても熱心である。また、生徒対応だけでなく、家庭訪問等の保護者対応にも日々努めている。ただし、次の点においては、本校の課題であると考えている。

- ア) 一部に、日常的な校則違反をする生徒や生活リズムが崩れている生徒がみられる。保護者の協力も得にくく、指導を繰り返すものの、あまり効果がなく、改善の見通しが立てられない。
- イ) 不登校生徒が多く、対応に苦慮している。令和6年度の年間30日以上の欠席者は、1年18名、2年20名、3年20名の合計58名であり、全校生徒の16.6%に達している。
- ウ) 各種テストにおける得点力に多くの課題がみられる。令和6年度の全国学力・学習状況調査(3年生のみ対象)、大阪府チャレンジテスト(チャレンジテストplusも含む)の結果は以下の通りである。

◆全国学力・学習状況調査(3年生のみ対象)

	全国	市	本校
国語	58.1	56	53
数学	52.5	51	49

◆チャレンジテスト(1年の理社はチャレンジテストplus)

	1年		2年		3年	
	府(市)	本校	府	本校	府	本校
国語	58.5	57.0	65.5	59.1	65.2	61.9
社会	53.7	52.5	49.5	48.2	50.4	42.4
数学	49.8	45.2	50.7	46.6	49.1	50.4
理科	55.6	50.4	47.2	50.0	52.4	47.0
英語	61.5	55.7	54.0	45.4	53.6	50.8

- エ) 校内体制として、生徒が主体的に取り組める活動が少ないことが以前からの課題であったが、この数年の教員の努力で、徐々にそういった活動が増えている。“指示を受けてから動く”のではなく、“自ら考えて動く・判断する”といった生徒を増やしていく必要がある。
- オ) PTAとの連携は、以前と比べると活発とまでは言い難い。少なからずコロナの影響もあって、どちらかといえば縮小される傾向にあると思われる。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ◎不登校生徒の減少をめざし、令和7年度末には6%未満までとする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎学力向上をめざし、令和7年度には【全国学力学習状況調査】における各教科の得点を全国と、【チャレンジテスト】では各教科の得点を大阪府と、【チャレンジテスト plus】では各教科の得点を大阪市と、同じレベルにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎各教科の授業において、ICT機器を活用した授業を令和7年度には年間80%以上にする。

- ◎「教員の時間外勤務時間の状況について」中、「3 貴校教員の時間外勤務時間上限基準の達成率」の「基準1」を、令和7年度1月度には45%以上にする。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ◎年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。

- ◎年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ◎中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

- ◎中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ◎授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[学校行事等で端末の活用が適さない日を除く]

- ◎年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。

3. 本年度の自己評価結果の総括

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>◎年度末の校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。</p> <p>◎年度末の校内調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◎カウンセリングマインドに基づいた生徒対応を実践する。</p>	
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◎生徒自らが発案計画実践できる取り組みを計画する。</p>	
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>◎「今週のできごと」を継続実施する。</p>	
<p>《①②③の共通指標》</p> <p>1か月の欠席者及び保健室健室来室者数(心因性)を昨年度の同月より減少させる。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>◎中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>◎中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎国語・数学・英語における習熟度別分割授業を充実させ、全体的な得点力向上を図る。</p>	
<p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎全教科を通じて授業の振り返りを授業ごと(単元ごともしくは1教材ごと)に150字程度の作文を書かせることによって、書く力を伸ばす。</p>	
<p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>◎読解力・表現力の向上をめざした授業実践(音読, ペア&グループ学習, プレゼン, 探求型学習)をおこなう。</p>	
<p>指標:RST(リーディングスキルテスト)を第1学年の初期と第2学年の後期に実施し、その成績を向上させる。</p>	
<p>《①②③の共通指標》</p> <p>◎中学生チャレンジテストにおける国語の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p> <p>◎中学生チャレンジテストにおける数学の学力に課題の見られる生徒の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式2)

大阪市立瓜破西中学校 令和7年度運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>◎授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[学校行事等で端末の活用が適さない日を除く]</p> <p>◎年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <p>◎ICT活用技術の研修会を年間を通じて3回おこなう。</p>	
<p>指標:授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く]</p>	
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>◎退勤時刻17:30までの教職員用「ゆとりの日」を月に4回確保する。</p>	
<p>指標:年次休暇を10日以上取得する教職員の割合を60%以上にする。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度への改善点